

## 為替週間展望 = ドル円は緩やかに上値を追う展開か

[ 1 1 月 1 1 日からの 1 週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		11 月 4 日 ~ 11 月 8 日			
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	152.63	154.71( 7 )	151.30( 6 )	152.75	-0.26
ユーロ・ドル	1.0847	1.0937( 5 )	1.0683( 6 )	1.0774	-0.0060

  

国内株・金利 / 米国株・金利		終 値		前週末比	
		終 値	前週末比	終 値	前週末比
日経平均株価	39,500.37	+1446.70	日本10年債利回り	1.010	+0.059
ダウ平均株価	43,729.34	+1677.15	米10年債利回り	4.326	-0.058

< 来週の主要経済統計等 >

- 1 1 日 日本 9 月経常収支  
日銀金融政策決定会合の主な意見 ( 1 0 月 3 0 - 3 1 日分 )
- 1 2 日 独 1 0 月消費者物価指数確報値  
英 1 0 月雇用統計  
独 1 1 月 Z E W 景況感指数
- 1 3 日 ユーロ圏 9 月鉱工業生産指数  
米 1 0 月消費者物価指数
- 1 4 日 豪 1 0 月雇用統計  
英 9 月鉱工業生産指数、英 9 月製造業生産指数  
英第 3 四半期 G D P 速報値、英 9 月貿易収支  
ユーロ圏第 3 四半期 G D P 改定値  
米 1 0 月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数  
パウエル F R B 議長講演  
※アジア太平洋経済協力会議 ( A P E C ) 閣僚会議
- 1 5 日 日本第 3 四半期 G D P 1 次速報  
中国 1 0 月鉱工業生産指数、中国 1 0 月小売売上高  
日本 9 月鉱工業生産指数確報値  
スイス 1 0 月生産者輸入価格  
カナダ 9 月製造業出荷、カナダ 9 月卸売上高  
米 1 1 月 N Y 連銀製造業景気指数、米 1 0 月輸入物価指数  
米 1 0 月小売売上高  
米 1 0 月鉱工業生産・設備稼働率
- 1 6 日 A P E C ( アジア太平洋経済協力会議 ) 首脳会議

【前回のレビュー】今後のドル円は F O M C、米経済指標の動向、米大統領選の結果などに左右されやすい展開が見込まれる。米経済指標も大きく悪化するものは少なく、米国経済の底堅さが示されてドル円の下支えをしそうだ。日銀による利上げ観測などが円買いにつながる可能性はあるものの、ドル円は高値圏でのみ合いになるとした。

【共和党のトランプ氏勝利でドル高に傾く】

日本時間の 6 日に米大統領選挙の開票が進むにつれて、共和党のトランプ前大統領が優勢と報じられ、夕方ころには当選がほぼ確実となった。トランプ氏が当選すると、減税や規制緩和などが実施されるとの見方が広がり、米株高、ドル高、米金利高が進んだ。

6 日の米国株は N Y ダウが 1 5 0 0 ドル超の上昇となり、N Y ダウ、ナスダック、S & P 5 0 0 の主要 3 指数が最高値を更新した。ドル買いの動きからドル円は 1 5 1 円台

前半から154円台後半まで急伸した。ユーロドルは1.0930台から1.0700ドル割れまで急落した。米10年債利回りは一時4.470%前後まで上昇した。

7日に入るとドル高の動きも落ち着きを見せた。ドル円は上げが一服して153円割れまで一時下落した。米10年債利回りは4.330%前後まで低下した。米国株は堅調で、NYダウはほぼ変わらずで引けたものの、ナスダックとS&P500は連日で最高値を更新した。

#### 【FOMCでは予想通り利下げ】

米大統領選挙の影響で1日後ずれした米連邦公開市場委員会（FOMC）は11月6-7日に開催されて、日本時間8日午前4時に結果が発表された。大方の市場予想の通り、0.25%の利下げを決定した。パウエル議長は記者会見で12月のFOMCでの利下げは「データ次第」と述べ、利下げの可能性は肯定も否定もしなかった。米大統領選後のドル買いの反動安が一服した後だけにFOMCへの反応は限定的となった。

11月11日の週は13日に米10月消費者物価指数、14日に米10月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、15日に米10月小売売上高などの発表がある。米消費者物価指数はおおむね前回と同水準の予想となっており、目立ったインパクトはないとみられる。米小売売上高が予想を上回ると、ドル買いに傾くこととなりそう。

なお、この週は米経済指標やトランプ氏の発言や政策の報道などに左右されやすい展開が続くとみられる。一段の利下げの催促やドル高けん制などの発言が出てくるようだと、堅調に推移するドルの上値を抑える可能性も出てきそう。

ただ、米国の経済指標は堅調で、最高値圏にある米国株も底堅い動きが継続することとなりそう。トランプ新政権への期待感もあり、ドルは底堅い動きを見せる展開が見込まれる。こうした中、ドル円は緩やかに上値を追う動きになるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、150.00～156.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、11日に日本9月経常収支、13日に米10月消費者物価指数、14日に米10月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、15日に日本第3四半期GDP1次速報、米11月NY連銀製造業景気指数、米10月輸入物価指数、米10月小売売上高、米10月鉱工業生産・設備稼働率などがある。

#### 【ユーロドルは安値圏での振幅か】

ユーロドルは5日まで戻り歩調で推移して、1.0930台まで上値を伸ばしてきた。7日にトランプ候補が当選確実との報道などにより、ドル買いに傾いて、6日には急落して一時1.0700ドル割れまで下げた。その後は下げも一服している。大荒れの展開の後だけに、しばらくは安値圏で荒れた動きが続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0600～1.0950ドル。

7日の英金融政策委員会（MPC）では政策金利は市場予想の通り0.25%引き下げて、4.75%とした。票割れは8対1。ベイリー総裁は「急過ぎや過度な利下げはできず」「金利はここから緩やかに低下する公算大きい」と述べている。

英金融政策委員会（MPC）議事録では、「デイスインフレの進展は続いている」「残存するインフレ圧力の大半は急速に解消する可能性がある」「政策抑制を緩やかに解除するアプローチが引き続き適切」「インフレ持続のリスクを注意深く監視し、金融政策の制限の適切な程度を各会合で決定する」としている。

ポンドドルは6日にトランプ当選確実の報道などからドル買いの動きとなって1.30台半ばから1.28台前半まで急落した。売り一巡後はやや落ち着きを取り戻して、1.29台を回復している。英中銀はMPCでインフレ見通しでは2025年と2026年をそれぞれ0.5ポイント引き上げた。これを受けて、ポンドドルは1.29台半ばまで上昇している。このところは荒れた動きを見せており、しばらくは安値圏で振幅を見せる展開となりそう。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2700～1.3100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、12日に独10月消費者物価指数確報値、

英10月雇用統計、独11月ZEW景況感指数、13日にユーロ圏9月鉱工業生産指数、14日に豪10月雇用統計、英9月鉱工業生産指数、英9月製造業生産指数、英第3四半期GDP速報値、英9月貿易収支、ユーロ圏第3四半期GDP改定値、15日に中国10月鉱工業生産指数、中国10月小売売上高、スイス10月生産者輸入価格、カナダ9月製造業出荷、カナダ9月卸売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。